

春夜しゅんや
(蘇軾そしやく)

春宵一刻直千金
花有清香月有陰
歌管樓臺聲細細
鯀鞦院落夜沈沈

春宵しゅんしょう
一刻いつこく
直あたひ
千金せんきん

解説 春の夜の静かな情趣を詠じた詩。

語釈 ※春宵Ⅱ春夜に同じ。※一刻Ⅱ刻の長さには諸説があるが、

普通は十五分をいう。短い時間をさす。※直Ⅱあたひ。ねだん。

※千金Ⅱ漢代では黄金一斤を一金と叫んだ。千金は大変高価であることをいう。※清香Ⅱ清らかな香。※陰Ⅱ月が朧おぼろに霞かす

んでいること。※歌管Ⅱ歌は歌声。管は管楽器で、笙や笛の類をいう。

※楼台Ⅱ高い建物。※細細Ⅱ微かすかに音がするさま。※鯀Ⅱぶらんこ。

※院落Ⅱやしき内の中庭。※沈沈Ⅱ夜の静かにふけてゆくさま。

花はなに
清せい香こう
有あり
月つきに
陰かげ
有あり

歌か管かん
楼ろう台だい
声こえ
細さい々さい

通釈 ほんのわずかな時間が千金もの値うちがある。花には男香りが

ただよっており、月はおぼろにかすみ、なんともいえない風情(ふぜい)である。先ほどまで歌を歌ったり、楽器を奏したりして、

にぎやかだった高殿も、今はかすかに音が聞こえるばかり。中庭には、置き捨てられたぶらんこが一つ。夜は静かにふけていく。

鞦しゅう鞦せん
院いん落らく
夜よる
沈しん々しん